

歯学部附属歯科技工専門学校
令和7年度自己点検・評価及び学校関係者評価票

自己点検・評価		取組評価	学校関係者評価			令和8年度の取組方策	
項目	結果		自己点検・評価結果への意見等	優れている点、継続してほしい点	問題点・要望等		取組評価
点検・評価項目① 学生の募集活動は適正に行われているか。	<p>1 現状分析 進学相談会を日曜日に実施し、個別相談の依頼があった場合は相談者の希望日に合わせ逐次教員が対応することで、社会人受験生、高校生と保護者にも進学に関する正確な情報提供を行っている。また、社会人選抜試験の実施回数を増やし、定員数も社会人選抜の定員割合を増加させた。年々、志願者数が微増している。</p> <p>2 長所・特色 全国の歯科技工士養成学校で唯一の夜間課程が長所である。仕事を持ちながらも国家資格の取得が目指せるという特色がある。</p> <p>3 問題点 令和7年度入学者から高等教育の修学支援新制度の対象外となった。</p> <p>4 取組方策 進学相談会実施機会を確保することで正確な情報提供が可能であり、Webサイトの充実、SNSによる情報発信及び進学サイトとの提携を継続することにより入学者数の増加を目指す。</p>	B	<p>学生募集活動については、社会人選抜試験の実施回数や募集人員の拡大、日曜開催の進学相談会やオンライン個別相談など、志願者に寄り添った多様な情報提供の取組が評価できる。これらの施策の成果として志願者数は年々増加傾向にあり、今後も状況を注視しつつ継続的な改善を検討してほしい。</p> <p>社会人・高校生双方の受験希望者に対し、丁寧できめ細やかな情報提供が行われている点は高く評価できる。</p>	<p>進学相談会を日曜日に実施していることは、志願者にとっては来校しやすい設定と思われる。</p> <p>また、Zoomで個別の進学相談を受け付けているなど志願者にとっては進学相談会への参加方法が広がるので継続してほしい。</p> <p>今後も働きながら学ぶ学生が安心して学習を継続できる環境整備を期待し、広報活動を通じて歯科技工士養成学校で唯一の夜間課程である意義と利点を社会に発信し続けてほしい。</p>	<p>Webサイトやブログ更新、動画活用など、情報発信方法の強化や発信手法の改善が必要との指摘もみられた。歯科技工士養成学校で唯一の夜間課程という教育体制は、大きな特色であるため、その意義と利点を社会に分かりやすく伝える広報戦略の充実を望む。</p> <p>また、LINE等を活用したフォローアップなど、関心層への継続的なアプローチにも発展の余地がある。</p> <p>高等教育の修学支援新制度の対象外となったことは、出願を考える学生に影響を及ぼす可能性がある点で懸念される。</p> <p>今後、本校の魅力をよりの確に発信し、歯科技工士養成の社会的使命を果たすための募集活動の強化を期待する。</p>	B	<p>Webサイト及びInstagramを活用した情報発信の強化を目的として、定期的な更新スケジュールを設定し、最新情報や教育の特色を分かりやすく伝えるコンテンツの作成を検討する。その他のSNSにもアカウントを作成し、情報を発信していく予定である。</p> <p>また、夜間課程の意義や利点を効果的に伝えるためのリーフレットを作成し、進学相談会や学校説明会で配布することで、関心のある層への継続的なアプローチを行う。</p> <p>さらに、高等学校への訪問や進路説明会への積極的な参加を継続し、直接的な情報提供と交流を図るとともに、個別相談の機会を設けて、関心を持つ生徒、保護者及び社会人に対して丁寧なフォローアップを実施する。</p> <p>加えて、高等教育の修学支援新制度の対象校となることを目指し、学生の経済的負担軽減に努める。</p>

自己点検・評価		取組評価	学校関係者評価			令和8年度の取組方策	
項目	結果		自己点検・評価結果への意見等	優れている点、継続してほしい点	問題点・要望等		取組評価
点検・評価項目② 関連分野における知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	<p>1 現状分析 専任教員は学士以上の学位を取得しており、日頃より歯科技工分野の先端的な知識と技能を得るために、付属歯科病院からの依頼を受け臨床歯科技工を行っている。 また、全国歯科技工士教育協議会の講習会に参加し、カリキュラムプランニングやコーチング等について学んでおり、学生教育に生かしている。授業アンケートを基に自己評価を見直し指導力の研さんを日々行っている。</p> <p>2 長所・特色 専任教員間での資質向上に係る取組の情報共有が常にできている。</p> <p>3 問題点 専任教員1名体制でそれぞれの学年の講義、実習指導に当たっているため、参加できない研修会等が多い。</p> <p>4 取組方策 学生のために臨時職員として実習担当の歯科技工士の採用が進行中であり、採用により時間の余裕ができ自己研さんへの取組も今まで以上に実施できるようになる。</p>	A	<p>教員の資質向上を目的として、講習会や研修会へ積極的に参加しており、得られた知見を学生指導に還元している点は高く評価できる。 また、全専任教員が学士以上の学位を有し、付属歯科病院との連携を通じて臨床歯科技工に触れる機会を得ていることは、教育の質を支える大きな強みである。</p>	<p>講習会で学んだことを今後も学生教育に生かしてほしい。 講義・実習で使用していた教材が、分かりやすくすばらしい。 教員間の情報共有が恒常的に行われている点は、本校教育の均質性と授業の質を担保する上で重要であり、今後も継続を望む。</p>	<p>各学年を専任教員1名で担当する現状では、時間的余裕がなく、自己研さんや学会参加が制限される可能性があるかと推察されるので、臨時職員（実習指導補助）の起用が進むことで専任教員の負担が軽減され、より計画的な研修参加や研究活動につながることを期待する。また、授業評価アンケートの回収率向上など、教育改善のためのフィードバックの質と量を高める取組も検討してほしい。 教育の質を持続的に確保していくために、人員体制の強化と研さん環境の整備について改善を検討してほしい。</p>	A	<p>教育の質の確保を目的として、実習指導補助の臨時職員を採用する実習指導補助者には、指導内容や教育方針を明確に伝え、効率的なサポート体制を構築していく。 また、定期的な研修や情報共有の場を設けることで、専任教員及び臨時職員の指導力向上を図る。 アンケートの回収方法については、多様化（オンライン、紙媒体など）を進め、回収率向上のためのインセンティブ（学生へのフィードバック）を明確に提示する。 さらに、教員の適正配置や増員については引き続き検討し、負担の均等化を目指す。</p>
点検・評価項目③ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	<p>1 現状分析 毎年健康診断を実施し、受診結果を学生本人へ手渡ししている。講義及び実習時間中に体調不良や怪我をする学生が出た時の対応に苦慮している。 当該学生の対応をしている時には、他の学生は、他学年の教員に声を掛け指導をお願いしているが、全体的に授業の遅れが出てくる。</p> <p>2 長所・特色 平時から教員間で学生や実習内容につ</p>	B	<p>学生の健康管理に関する情報共有が教員間で適切に行われており、欠席状況や学業面の変化を把握した上で柔軟に支援できる体制が整っている点は評価できる。また、全学生が毎年健康診断を受診している点も、学生の健康保持の観点から重要な取</p>	<p>学生の様子など情報共有がよくできている（欠席状況・学業の遅れなど）。 平時から教員間で学生情報・実習状況の共有が行われているため、体調不良時に他学年教員が一定の支援に回れる体制がある点も評価できる。</p>	<p>緊急時の初期対応が専任教員に大きく依存している現状は課題として指摘する。 応急処置に関するマニュアル整備や教員向けの講習、応急手当に最低限必要なもの（絆創膏や包帯、ガーゼ類）、体温計や医薬部外品の薬の準備など、組織としての標準</p>	B	<p>令和7年度より衛生材料や経口補水液などを教員室に常備し、万が一に備える体制をとってきた。さらに、必要な医療用品や衛生材料を適切に備蓄し、定期的に点検・補充を行う。 緊急時の対応手順を詳細に記載したマニュアルを作成し、教職員</p>

自己点検・評価		取組評価	学校関係者評価			令和8年度の取組方策	
項目	結果		自己点検・評価結果への意見等	優れている点、継続してほしい点	問題点・要望等		取組評価
	<p>いての情報を共有しており、同じ実習室内にいる場合は他学年への対応もある程度は可能である。</p> <p>3 問題点 専任教員が体調不良や怪我の手当てを行うことになるが、医療についての専門知識を十分に持ちえないため、応急処置が適切に行えない場合などの問題がある。 また、体調不良や怪我への対応を行っている間は講義及び実習の指導が事実上止まってしまう。</p> <p>4 取組方策 対応マニュアルの作成、急時に適切に応急処置ができるよう教員への研修等を行う。また、実習のサポートという形で臨時職員の採用に向けて方策が進行中である。</p>		<p>組として高く評価される。少人数の教員体制の中でも、体調不良や軽微な怪我に対し迅速に対応している点も努力がうかがえる。</p>		<p>化と安全管理体制の強化が求められる。 また、体調不良者対応中に授業が中断される問題もあり、臨時職員（実習指導補助）の配置など教員負担を軽減する体制整備も必要と思われる。 学生自身の健康管理意識を高める教育の実施もリスク低減に有効と考えられる。 夜間課程特有のリスクに対応するための組織的な健康管理・緊急対応体制の強化も今後の重要な課題である。</p>		<p>に周知徹底する。 また、応急処置や救命措置に関する定期的な研修会（普通救命講習会等）に積極的に参加し、対応力の向上を図る。</p>
<p>点検・評価項目④【重点目標】 関連分野における業界との連携による学生への教育体制は整備されているか。</p>	<p>1 現状分析 授業時間外に研修歯科医と合同で歯科材料製造企業主催のセミナーへ学生の希望者が参加している。5月に4名参加し、10月のCAD実習セミナーには9名が参加予定である。その他、専任教員が歯学部附属歯科病院から受注された臨床技工を担当することにより、臨床技工終了後の模型及び症例写真等を使用でき、充実した授業が展開できる。</p> <p>2 長所・特色 歯学部附属専門学校であるため歯科材料製造企業主催のセミナーにも連携がとれること。また、専任教員の歯科技工に関する知識及び技術の向上に寄与する。</p> <p>3 問題点 夜間課程のため、カリキュラムとして歯科技工所や関連企業に学校教育への参</p>	A	<p>歯科材料製造企業が主催するセミナーへの参加機会が学生に提供されており、授業時間外ではあるものの、最新の技術や製品に触れられる貴重な学習機会となっている点は高く評価できる。特に、CAD実習や材料講習など、デジタル化が進む歯科技工界の潮流に即した内容に学生が触れられることは、実践的な知識・技能の獲得に直結しており、夜間課程の制約を補いながら教育の幅を広げている。</p>	<p>時間外ではあるが歯科材料製造企業へのセミナーの参加は継続してほしい。 歯科業界の現状を知ること、新しい技術など知識を養うことができ、素晴らしいことだと思われる。 今回は3Dスクリーン及びCADソフトが導入され、教育内容の拡張が可能となった点は大きな前進であり、引き続きデジタル教育基盤を維持・発展させてほしい。</p>	<p>社会のニーズにあった教育環境を整えることは重要である。 CAD/CAMは歯科界の潮流であり歯科技工教育のデジタル化の加速に伴い、CAD/CAM機材の更なる拡充や多年度計画での設備整備の検討が求められる。 企業講師の招へい、職場見学、オンライン活用による時間制約の克服など、夜間課程の特性を踏まえた教育機会の強化は、今後の重要な課題である。 また、教員自身の業界動向に関する研修</p>	A	<p>CAD/CAM機材の拡充を進め、多年度計画に基づく設備投資を推進する。これにより、最新のデジタル技術を教育現場に積極的に取り入れ、教育の質の向上を図る。 また、産学連携や補助金制度を活用し、資金調達の検討を行う。 教員に対しては、業界動向や最新技術に関する研修を定期的に行い、指導力の向上を促進する。さらに、学会への参加や東京都歯科技工士の研修事業への参加を奨励し、教育内容のアップデート</p>

自己点検・評価		取組評価	学校関係者評価			令和8年度取組方策
項目	結果		自己点検・評価結果への意見等	優れている点、継続してほしい点	問題点・要望等	
	<p>画を依頼することが困難である。</p> <p>4 取組方策 学生への教育を偏りなく行うため、また、セミナーで習得したことが学校でも実践できるよう CAD 実習を増やしていく。そのため令和7年度3DスキャナーとCADソフトを導入した。今後も継続的に予算との兼ね合いを考えながら、CAD実習の在り方を検討する。</p>		<p>また、付属歯科病院との連携により、臨床症例を教育資源として活用できている点は、大きな強みである。実際の臨床に基づいた授業展開や技工製作補助等の体験は、学生の理解を深化させ、社会で求められる実践力の育成に寄与している。</p>		<p>受講など、指導側のアップデートも継続的に必要である。</p> <p>現行の業界連携は質・内容共に有用であり、学生の学びを大きく支えているが、今後はデジタル技工教育の一層の強化と、夜間課程ならではの時間的制約を補う柔軟な教育設計の充実を期待する。</p>	<p>を積極的に推進する。</p> <p>既存の業界連携を維持しつつ、業界のニーズに即したカリキュラムの見直しを逐次行うことで、より実践的かつ時代に即した教育を実現する。</p>